

公益社団法人留萌地方法人会は、国税庁・全国納税貯蓄組合連合会が主催する「中学生の税についての作文」募集事業に令和2年度から協賛しています。令和7年度に入賞された3作品を掲載します。

中学生の税についての作文

北海道納税貯蓄組合連合会会長賞

「税金」

最近、ニュースやインターネットなどで「税金が高すぎる」や「減税してほしい」などの意見をよく見かけます。たしかに、家族が「また増税か・・・」と、困ったようにしてマイナスイメージをもっていました。ですが、私はこの作文を書くために、税金について調べてみたことでその印象が少し変わりました。

税金は、私たちの身の回りのすぐそばでたくさん使われていることを知って少し驚きました。たとえば学校、教科書や机、黒板などの備品、それに先生たちの給料まですべて税金から出ているそうです。そのほかにも道路や公園、図書館、病院、警察や消防など私たちの生活を守り、支えてくれているものの多くが税金のおかげなのです。

また、私の住んでる町には大きな図書館や児童館、公園があります。どれも無料で利用でき

るので、よく遊びに行きます。お金を払わずに使えることを不思議に思ったことはありませんでしたが、これも税金のおかげということを知りました。これまで当たり前のように行っていたことも、税金でつくられていることを知ったとき自然と感謝の気持ちがわいてきました。

一方で税金の使い道について問題があるという話も耳にします。「無駄遣いが多い」とか「本当に必要なところに使われていない」といった声を聞くと、不安や不満に思うのはわかります。たしかに私も税金の使い道について考え直すべきところはあると思います。でも、だからといってただ「減税しろ」と、批判するだけではいいとは思いません。まずは、税金とは何か、どのように使われているのかをよく学び、それを理解したうえで自分の意見をもつことが大事だと思います。

留萌市立港南中学校2年B組

宮丸 詠詩

税金は道路や建物をつくるだけではなく、病気の時にお金を少し税金からまかなってくれたり、困っている人たちを支える福祉の仕組みなど、多くの面で人々の暮らしを支えています。災害が起きたときの支援や、緊急時の避難場所の確保なども税金がなければ全てできません。税金は私たち一人ひとり、つまり社会全体を支えているのです。

私はこの作文をきっかけに税金について興味をもちました。もともと税について深く学びたくありませんでした。そして将来、ただ不満を言うのではなく、正しい知識をもとにしっかりと自分の意見をもちそして、たくさんの人に伝えられるようになりたいです。よりよい社会を作るために今自分にできることをしていきたいです。

中学生の税についての作文

留萌税務署長賞

「税がつないでくれない」

私の周りには、いつでもどこでも身近なところに税がある。普段歩いている道路や信号機、いつも何気なく見ている風景は当たり前ではないと思った。そう思ったのは、国民の税金を集めて作られているということを知っているからだ。何も知らなければいつも変わらない風景としか思わないだろう。私は、その中でも特に一番身近にあると感じたものは、教科書だ。教科書は進級するごとに毎年年度初めにもらう。もし税金がなかったら、経済的に苦しい家庭では教科書を購入することが困難だったり、皆が平等に教育を受けたりすることはできなかったのではないかと思った。

そこで、教科書はいつから無償になっているのかを調べた。一九六三年度から一学年ずつ無償化になったそうだ。

ここで、税は平等と公平のどちらといえるの

かが気になった。調べてみると、税には三つの

「公平・中立・簡素」を原則とした税の制度があることが分かった。「公平」の原則は経済力が同等の人に等しい負担を求める「水平的公平」と経済力のある人により大きな負担を求める「垂直的公平」があり、近年では「世代間の公平」が重要となっている。「中立」の原則は税制が個人や企業の経済活動における選択をゆがめないようにすることである。「簡素」の原則は税制の仕組みをできるだけ簡素にし、理解しやすいものにする。このように、私達消費者、納税者が理解しやすくするための仕組みの工夫があったり、皆が公平に、義務教育を受けられるようになったりしたのは、当たり前前と感じていた税がつないだ無償化だと思った。

公平という言葉の意味をしつかりと理解したうえで必要な物を買ひ、消費税を払っていき、税

留萌市立港南中学校2年A組

橋本 萌菜

への理解を深め、自分との関わりや誰かが収めた税に感謝して過ごしていこうと思った。

教科書は国民の税で国が無償でくれたものだから、粗末な扱いをせず、一年一年大事に使っていき、将来自分が税をしつかりと納め、社会を支えられるような人になっていきたいと思った。中学生の私に今できることは、たくさんすることを学び、残りの義務教育の中学校生活を楽しむことだと思う。

将来働いて納めた税が教科書になり、私と同じ考えをもつ学生がいるのかと想像した。税金と共に皆で支え合う社会づくりを私は望んでいる。

中学生の税についての作文

公益社団法人留萌地方法人会会長賞

「日頃の感謝」

はじめに、税金とは社会での助け合いの活動のためにみんなでたくさんのお金を出し合っていて、負担するもので、年金・医療などの社会保障、福祉や水道、道路などの社会資本整備、教育、警察、防衛といった公的サービスを運営するための費用を賄っています。これを踏まえて、私は税金の使われ方や増税について感じたことがあります。

まず、税金の使われ方について感じたことは、日頃の感謝の大切さです。私は、税金の使われ方を知ること、税金が私たち、子供の学問や安全、遊びなどを大きく支えていることを改めて感じました。そして、税金はモノを買ったり、お金を稼いだりすれば、子供からでも納めることが義務になっていることを再確認したことで、国民が国民を支え合っていることを実感し、日頃の感謝を伝え合う大切さを感じました。

次に増税について感じたことです。日本の消

費税は一九九七年に五パーセント、二〇一四年に八パーセント、二〇一九年に十パーセントと少子高齢化が急速に進むことで社会保障費が増えることを理由に増え続けています。さらに、今では、二〇一六年に十パーセントから十五パーセントへと検討されています。このように増え続ける税のメリットは、財源の確保や公共サービスを充実させることができること。デメリットは、企業や個人の負担が増加していくこと。このような実態の中で、私は増税について、個人（国民）の負担が増えてまで今の生活を充実させるために増税をしていくべきなのかと疑問をもちました。税はみんなが互いに支え合い、共によりよい社会を作っていくためにあります。今、日本は増税の中で食品や生活用品の高騰によって国民は悩まされています。私は、この状況で国民はよりよい社会と感ずることができていないと思います。なので、国民の幸せを築いていくのなら、増税をせず、少して

留萌市立港南中学校3年A

伊藤 菜月

も減税をして、国民が生きやすいような国にしていけば良いと思いました。

そして、私は税について感じた二つのことから、税について「詳しく」知る重要性を再確認しました。私はニュースなどをあまり見ず、税金の身近さを感じていなかったため、税の使われ方や増税について関心を持っていませんでした。しかし、税金について詳しく調べ、知ることができて日頃の「有難み」に気づくことが出来ました。

このように少し前までは気づくことができなかった身近な有難みはたくさんありました。その一つ一つに気づき、感謝を忘れず、私たちの日本をよりよい社会として支え合っていきたいと思いました。また、その一つ一つに気づいていくために、日頃から見ていなかったものも視野にいれ、生活していきたいと思っています。